

ニ不足積ハ物ノツモリタルヲ云ナレバ、自然ト出來ルヲ云、即音モ姿ニナリテヨケレドモ、セキニ取サバク、又形ノアル積ノ名ナリ、聚ハ氣ノ聚リタルニテ、形ノアルニ非ズ、

〔倭名類聚抄^三疝〕 釋名云、疝音山、阿太波良、一云之良太美、腹急痛也、

〔箋注倭名類聚抄^二疝〕 阿太波良、童蒙頌韻醫心方同訓、又見酒飲論^略、中原書心痛曰疝、疝、訛也、氣訛

訛然上而痛也、又云、陰腫曰隤、氣下隤也、又曰疝、亦言訛也、訛々引小腹急痛也、說文疝、腹痛也、

〔昆陽漫錄〕疝

釋名に云く、心痛曰疝と、これにて病名も古とたがへることをみるべし、

〔伊呂波字類抄^志疝〕 疝亦アラタハラ、

〔增補下學集^上疝〕 疝急支體、痛也、疝氣セシキ

〔病名彙解^七疝氣〕 俗ニ下風ト云リ、

〔一本堂行餘醫言^三疝〕 疝音詘、切、疝即聚又即瘕、附陰癩、臍脚

疝者鬱氣之凝滯、而爲痛者也、多在少腹、或上逆而奔突急痛、或四方走注爲痛、或自臍下升奔、衝心而痛、或下控陰囊爲痛、或引背脊、或牽脇肋、或縮小便、或秘大便、或不得前後、或大便忽瀉、忽秘、或爲久泄、或爲久秘、或控引罌丸入腹、則痛不可忍、或腹皮急、或腹筋急、或脈張筋怒、如有形、或腹中雷鳴、裡急非必瀉、或腹中有聲如蛙、或腰痛不可俯仰、

〔陰德太平記^{四十八}〕 羽倉元陰戰死之事

三月^{元龜}〇年 十八日、已ニ打立ントスル折シモ、伊織助俄ニ疝氣發シテ、前後不覺ニ譖語ノミ也ケレバ、夜討ヲ延引スルト云ケレ共、カク迄催シタル事、今更非可遲引トテ、羽倉孫兵衛元陰ヲ物頭トシテ、目加田采女允、同彈右衛門、高尾右馬允等五百餘人、小船十餘艘ニ取乘、米子ノ町ヘ打入ケリ、